

第671号 展示と催し物案内

東京国立博物館 ニュース

2005
6・7
月号



平成16年度新収品 ●2

特別展

模写・模造と日本美術

—うつす・まなぶ・つたえる— ●4

親と子のギャラリー

うつす・まなぶ・つたえる ●5

特別展

遣唐使と唐の美術 ●6

法隆寺宝物館 イブニングギャラリー ●6

平常展見どころ案内 2005年6月・7月

重文 土偶 ●7

特集陳列「万国郵便切手」/特集陳列「写経」

特集陳列「キリシタン関係遺品」など ●8-11

とうはく花だより ●11

ようこそ! 博物館の舞台裏へ

ボランティアという仕事 ●12-13

INFORMATION コンサートなど ●14

TOPICS ●15

2005年6月・7月の展示・催し物 ●16

特集陳列「平成16年度新収品」

5月24日(火)～6月19日(日) 本館特別2室・特別4室

平成16年度に、購入や篤志家からのご寄贈によって、新たに東京国立博物館の収蔵品となった文化財の一部を展示する新収品展を行います。
年に一度、東京国立博物館の新しいたからもののお披露目会です。
ここでは、そのなかから主な作品をご紹介します。

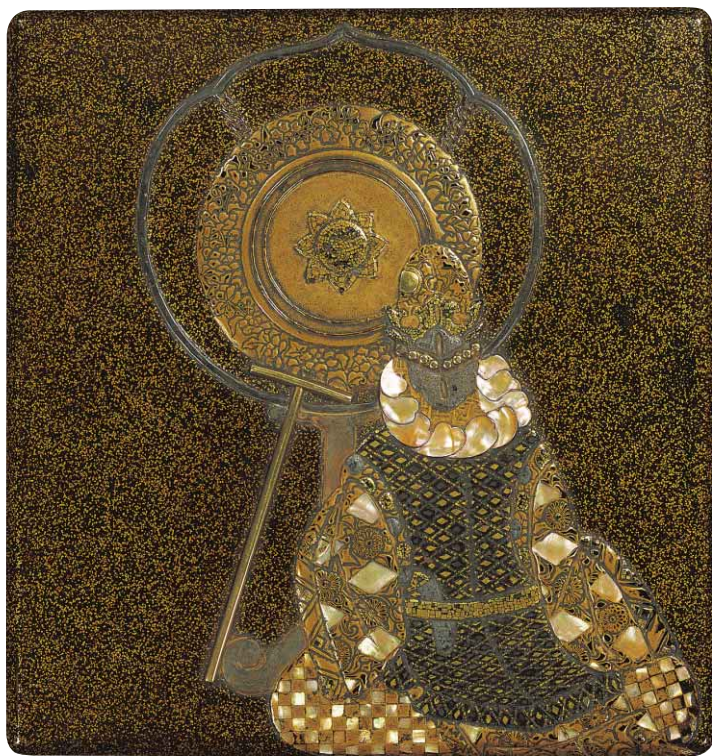
光悦ならではの素材とデザイン 重文 舞楽時絵硯箱

本阿弥光悦作

角切、蓋の肩を削面とした被蓋造の箱で、わずかに胴張のある形ですが、光悦の硯箱には珍しく、ほぼ伝統的な形式をとっています。蓋表には鉦鼓・鳩杖と鳥兜を被った舞人の後ろ姿、蓋裏に扇と舞楽装束、懸子と懸子下には鳥兜と笙と、蓋の表裏から見込みにかけて、舞楽にまつわる意匠を表しています。モチーフをクローズアップしてとらえた構図

や、貝や鉛、金の棒など材料の大胆な用法に光悦の漆芸の特色がよく表れているといえるでしょう。子日時絵棚(重文・当館蔵)と扇面鳥兜時絵料紙箱(重文・滴翠美術館蔵)とともに、徳島藩主・蜂須賀家に伝来しました。光悦作と伝えられる作品は来歴の分からないものが多く、貴重な存在です。

(竹内奈美子)



◎舞楽時絵硯箱 本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀
鳥兜や装束に貝、鳩杖に金棒、鉦架に鉛を用いている

志野草図向付 美濃 安土桃山～江戸時代・16～17世紀
和風食器の源流、ここにあり

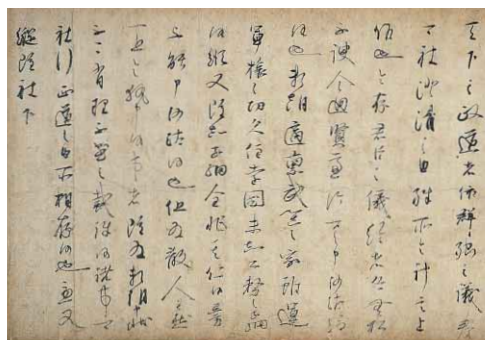


茶の湯の隆盛は日本にすばらしい焼物をもたらししました。志野はその代表的なもの。安土桃山から江戸時代初期に美濃窯で作られ、柔らかな白い素地に素朴な筆致の絵が魅力的です。茶碗、水指に優品がありますが、茶の湯の食事である懐石のうつわも素敵

茶の湯のうつわの魅力を体現 志野草図向付

なうつわがたくさんあります。向付とは懐石のうつわの一種で、膳の手に漆の飯椀、汁椀が置かれ、その向こう側に置かれるところから向付と呼ばれています。
この作品は向付の中でも平向付と呼ばれるもので、うつわは円形というそれまでの常識から離れ、四方に近い形となっています。見込には下絵付によって草文を描き、周囲にも盛んに文様を描き込んでいます。こうした一見煩雑にも見える描き込みも桃山様式の志野ならではの特色です。桃山茶陶として魅力を存分に表した楽しい食のうつわです。

(伊藤嘉章)



◎源頼朝書状 平安時代・文治2年(1186)
新しい政権をつくるという頼朝の意気込みを感じさせる

天下草創の気概を今に伝える、歴史の証文 重文 源頼朝書状

文治二年(一一八六)四月三十日付の左大弁藤原兼光宛ての源頼朝書状で、本紙など三紙を綴いでいます。「天下の政道は」と本文が始まり、群卿の合議による政治を求め、さらに後白河院の文書が下された後でも不当な場合は覆すことなどが奏上され、頼朝の朝廷に対する政策を充分にうかがうことができます。本文は頼朝側近の右筆・筆書記係が書いたも

のですが、花押のみ頼朝自らが加えています。また、「文治二」の年号部分は、本文とは別筆です。源頼朝の書状は現在約三千通ほどが知られていますが、最近の研究では頼朝自筆のものはないとされています。しかしながら、この書状は『吾妻鏡』にも収められている最も重要な文書であり、頼朝の天下草創の気概があらわれているといえましょう。(安達直哉)

吉祥模様の婚礼衣装

打掛 白綸子地松竹梅鶴亀宝尽模様

松竹梅、鶴亀、宝尽といった吉祥模様に長い大振袖の打掛といえば、誰しも婚礼衣装を思い浮かべることでしょう。現代の婚礼衣装は江戸時代後期以来の伝統ですが、現代の打掛と比べてみますと、模様の配置や技法など、いくつか異なった点がみられます。この打掛は白綸子に金糸や絹糸による刺繍で模様を表し、さらに、赤みのある茶色で細かい摺匹田を加えています。摺匹田とは鹿の子紋りの模様を型で表した「似せもの」



打掛 白綸子地松竹梅鶴亀宝尽模様
江戸～明治時代・19世紀
松竹梅に鶴亀の打掛といえば、
今も昔も婚礼衣装

で、小さい水玉の平明なデザインがかえって好まれたようです。このような模様や技法は、武家女性の婚礼衣装の典型的な様式ですが、江戸時代末期になりますと、裕福な町人層も着用するようになったようです。
(小山弓弦筆)

椅子によりて 北蓮蔵筆
昭和8年(1933)中御門宜子氏ほか4名寄贈
帝展出品後、初めての一般公開



うな明るく柔らかな色使いが注目を集めます。
(沖松健次郎)



松鷹図屏風 筆者不詳 安土桃山～江戸時代・16～17世紀

右側に寄せて描かれた松の古木、画面左に大きく枝を張り伸ばしています。松の根本には白い花をつけた椿が描かれ、左端には桜が咲いています。季節が右から左に進んでいること、右端に重心を置き左に視線を誘導する構図がとられていることから、現在は一隻ですが、本来は左に画面の続く六曲一双の屏風であったと思われます。松の枝には鷹が巣を作り、肉片をくわえた親鳥から餌をもらおうと五羽の雛鳥が騒いでいます。その鋭い眼差しををご覧ください。鷹は室町時代以降武士に好まれ、しばしば描かれました。濃彩の金屏風に猛禽の描かれた本図は、桃山時代に活躍した武士たちの嗜好がよく表れた作品といえることができます。
(田沢裕賀)

この作品の像主は中御門慶子氏。寄贈者の中御門氏のお母上にあたられます。昭和八年、北蓮蔵によって製作され、同年の第十四回帝展に出品されました。筆者の北蓮蔵は岐阜県の生まれ。山本芳翠、黒田清輝に師事し、白馬会を経て帝展・文展等に出品しています。初期の頃はやや硬い雰囲気風景画や人物を得意としましたが、この作品では、昭和二年から昭和五年までの欧州滞在を意識させるような明るく柔らかな色使いが注目を集めます。
(沖松健次郎)

武士好みの濃彩金屏風 松鷹図屏風

穏やかな色調と上品な画趣 椅子によりて

北蓮蔵筆

すつと伸びた背筋、こちらに向かつて微笑みかける表情に気品漂う和装の婦人。像主の気品と優しさを引き出すような自然で柔らかい筆触や色彩が効果的に用いられています。

特別展 模写・模造と日本美術 — うつつ・まなぶ・つたえる —

うつつこと、まなぶことは美の創造の原点です。
日本美術史上の名宝を模写・模造で紹介しながら、
日本美術における「模写・模造」の意味を探ります。

人がものをうつし、まなぶことは古くから行われてきました。日本美術の歴史をさかのぼってみると、作品をうつす「模写・模造」の行為は絵師・彫物師・金物師・塗師らによって繰り返し行われています。彼らは「模写・模造」によって古典から多くを学び、新たな美術を誕生させてきました。

明治初期 古典にいち早く注目したのが、フェノロサの哲思を受容し近代日本美術の構築に奔走した岡倉天心でした。天心は近代日本画の旗手となった横山大観や下村観山、近代木彫の先駆者となった竹内久一など、新進気鋭の美術家たちに古典美術の模写・模造をさせたのです。こうした「模写・模造」は、近代日本美術にさらなる創造をもたらしました。西洋美術がそうであったように日本美術の再生もまた「古典にまなぶ」ことから始まったといえます。さらに、こうした模写・模造作品は、博物館での展覧などにも活用され、近代日本の美術教育を支えてきました。

天心の精神は、その後文化庁や宮内庁正倉院事務所等の模写・模造事業

業にも引き継がれました。この特別展では、こうした近代の美術家たちによる日本美術史上の名宝の模写・模造作品、ならびに建築模型を紹介することによって、日本美術における「模写・模造」の歴史を概観し、その意味を探ります。また模写・模造作品それ自体の美術工芸的価値にも光を当てていきます。本展が「文化財を後世に伝えること」の意味についても考える機会となれば幸いです。

(井上洋一)

執金剛神立像
(原品東大寺蔵)
模造 竹内久一作
明治時代・19世紀
古典彫刻に学んだ竹内久一は、
やがて近代木彫を代表する
伎芸天女像を制作する



螺鈿紫檀五弦琵琶(部分)
(原品正倉院宝物)
模造 明治時代・19世紀
聖武天皇遺愛の名宝を再現



観音猿鶴図のうち猿図
(原品大徳寺蔵)
模写 横山大観筆
明治時代・19世紀
大観は、中国水墨画の最高峰
とされた南宋の画僧牧溪の代
表作に学んだ

特別展 模写・模造と日本美術—うつつ・まなぶ・つたえる—
7月20日(水)~9月11日(日)

東京国立博物館 平成館 特別展示室第4室

主 催：東京国立博物館

観覧料：平常料金でご覧いただけます。一般 420円 大学生 130円

*高校生以下と満65歳以上の方は無料。障害者とその介護者1名は無料です。
入館の際に年齢のわかるもの、障害者手帳などをご提示ください

■記念講演会

8月13日(土) 13:30~15:00 平成館大講堂

「日本美術を伝える」日本美術院評議員・東京芸術大学教授 田淵俊夫

*申込締切：7月29日(金) 必着

事前申込制(定員380名)、聴講無料(ただし当日の入館料が必要)

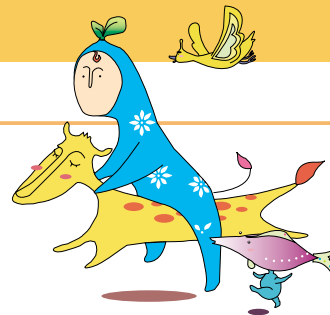
申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記までお申し込みください。

*1枚のはがきで、1人申込可能

*応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 教育講座室「模写」係

うつす・まなぶ・つたえる



特別展 模写・模造と日本美術「うつす・まなぶ・つたえる」と同じテーマで親と子のギャラリーを開催します。

模写・模造をホンモノよりも価値の低いニセモノだと思っている人はいませんか？

とんでもない！ 模写・模造あるモノをつつしてあたらしいモノをつくるのは、日本の美術の大きな伝統なのです。「親と子のギャラリー」では、日本美術のそんな一面をやさしく解説しながら、うつす・まなぶ・つたえることの楽しさ、難しさ、すばらしさを実感していただきます。

第1部 うつす

ありがたい仏像にあやかるために、その仏像をうつす。仏像の歴史は、そのくつかえしです。今は秘仏の長野・善光寺の阿彌陀三尊像は、飛鳥時代に百済から渡来したと伝えられています。鎌倉時代にはこの善光寺の阿彌陀三尊像をうつすことが大流行し、数えきれないほど多くの「善光寺式阿彌陀三尊像」が制作されました。

第2部 まなぶ

うつすことはまなぶことです。お手本を勉強して、自分のものにします。文字をまなぶ、つまりお習字のことはよくわかりますよね。勉強のために有名な書をそのとおりにうつすことも昔からおこなわれています。

第3部 つたえる

うつすことはつたえることです。うつされたものによって、いまはなくなってしまうものが、わたしたちの前にあらわれます。そして未来の人たちの前にも。

うつす

三尊の手のかたちもそっくり！



◎如来及び両脇侍立像
三国（朝鮮）時代・6～7世紀
法隆寺献納宝物
善光寺式阿彌陀三尊像のもとになったのは、このような朝鮮仏

親と子のギャラリー うつす・まなぶ・つたえる

7月20日（水）～9月11日（日）

東京国立博物館 平成館 特別展示室第3室

主催：東京国立博物館

観覧料：平常料金でご覧いただけます。一般 420円 大学生 130円

*高校生以下と満65歳以上の方は無料。障害者とその介護者1名は無料です。

入館の際に年齢のわかるもの、障害者手帳などをご提示ください



中尊寺金色堂

つたえる

修復によってかつての輝きをとりもどした中尊寺金色堂。いっぽうで、修復前の姿をつたえる「実写図」は、明治時代の金色堂の姿を今に伝える貴重な資料だ



中尊寺金色堂実写図 一括のうち 明治30年（1897）須弥壇の装飾を写した絵

◎阿彌陀如来及び両脇侍立像
鎌倉時代・13世紀 福島・いわき市蔵
善光寺式阿彌陀三尊像のなかでも優れた作例



ワークショップに参加しよう！ 毎日開催！当日参加

1 アナログ・プリント

会期中毎日 11:00～16:00

金属のかざりや石に彫られた文様は拓本やフロッタージュ（こすり絵）によって写し取ることができます。あなただけのアナログなプリントをつくってみませんか。会期中8月の毎週土曜14:30～彫金技法の実演もあります。

2 まねてまなぶ書

会期中毎日 11:00～16:00

中国の有名な書道家、王建中の書をじっくり見て、そっくり書いて、彼の技術を学んでみませんか？ 何度でも書きなおせる不思議な習字板を使います。

3 探検ツアー

善光寺式阿彌陀三尊像を探そう！

会期中毎日 13:30～

平成館会場で善光寺式阿彌陀三尊像の特長を目に焼き付けたら本館に行って、善光寺式阿彌陀三尊像を探してみよう。いくつ見つかるかな。

描いてみよう！日本の美術 事前申込制

親と子のギャラリーを観覧したあと、閉館後の本館2階展示室へ。「日本美術の流れ」の会場で国宝や、重要文化財など、日本美術の名品をスケッチします。夏休みの夕刻、親子で「描いてみよう！日本の美術」に参加してみませんか？

7月30日（土）、8月24日（水） 16:30～19:30

定員：50組（親子で参加）

◆申し込み方法

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④年齢（学年）を記入のうえ、官製往復はがき・FAX・電子メールのいずれかでお申し込みください。締切 7月25日（月）。定員を超えた場合は抽選。

申込先 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館 教育普及室

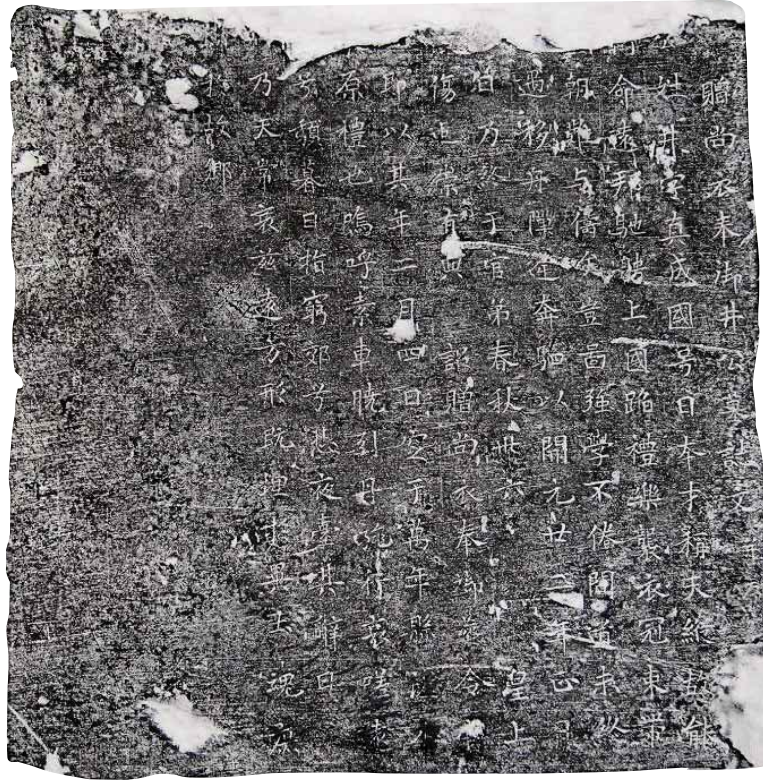
TEL 03-3822-1111（代） FAX 03-3822-3010

電子メール：edu@tnm.jp

特別展 遣唐使と唐の美術

二〇〇四年秋、西安市内で発見されて大きな話題を呼んだ遣唐使・井真成の墓誌が東博にやってきます。井真成も目にしたであろう華やかな唐文化を今に伝える美術工芸品の数々と日本国内に伝存する遣唐使ゆかりの品々などにより、日中文化交流の原点に迫ります。

井真成の墓誌
唐時代・8世紀
中国西安市発見
書き出しは「公、姓は井、字は真成、国は日本と号す」、文末には「形は既に異土に埋められるも、魂は故郷に帰るに庶(ちか)からん」とある



昨年、中国の西安市で、日本の遣唐使の墓誌が新たに発見され、大きな話題を集めました。八世紀前半に中国へ渡り、当時の唐王朝の都・長安で唐王朝につかえ、将来を嘱望されながら現地で亡くなった井真成の墓誌です。この井真成という遣唐使の名前は史書に記載がなく、いったい誰を指しているのか、その出自は葛井氏なのか井上氏なのか、様々な議論を呼んでいます。まだはつきりしたことはわかっていません。しかし、七世紀から九世紀の終わり頃まで、当時東アジアで最も大きな勢力を持ち、最も進んだ国であった唐の諸制度や文化を学ぶため、前後十数回にわたって派遣された遣唐使は、古代日本に多大な功績を残し、その墓誌が中国ではじめて発見されるという画期的なことでした。

今回の展覧会では、この井真成の墓誌を核として、七・八世紀に日本からの遣唐使がその目で実見したであろう唐文化の精華といえる品々を、遣唐使関連の日本伝来の遺品とともに展示し、遣唐使が目指し、古代日本が範とした唐文化の素晴らしさを改めてご覧いただきます。

(松本伸之)

特別展 遣唐使と唐の美術

7月20日(水)～9月11日(日)

東京国立博物館 平成館 特別展示室第1・2室

主 催：東京国立博物館 (社) 日中友好協会 朝日新聞社
観覧料：未定

巡回展 9月20日(火)～10月10日(月・祝) 奈良国立博物館

■記念講演会

8月6日(土) 13:30～15:00 平成館大講堂

「唐文化との出会い—遣唐使と留学生—」

奈良大学教授(本展ゲストキュレーター) 東野治之

申込締切：7月22日(金) 必着

事前申込制：定員380名、聴講無料

(ただし「遣唐使」展の観覧券が必要)

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申し込みください。

*1枚のはがきで、1人申込可能

*応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります

申込先：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9

ヤマナシビル4F 「遣唐使」展講演会係

法隆寺宝物館 イブニングギャラリーへのお誘い

法隆寺宝物館で研究員による解説をじっくりお聞きいただき、少人数でゆったりと作品をご覧いただく企画です。

当日は、ワインと軽食をご用意いたします。当館研究員や参加者の方々とのお話もお楽しみください。

会 場：東京国立博物館法隆寺宝物館

時 間：19:00～20:30

第1回 6月22日(水) 「1300年も受け継がれている染織技法」 環境保存室長 澤田むつ代

第2回 7月6日(水) 「小金銅仏の魅力」 事業部長 金子啓明

第3回 7月20日(水) 「法隆寺宝物金工品にみる国際性—東西交渉のあかし—」

文化財部上席研究員 原田一敏

聴講料：各回5000円(平常展観覧券付)

定 員：各回50名(先着順)

■チケットは当館正門観覧券売り場で販売 *開館日の閉館30分前まで

お問い合わせ先：東京国立博物館教育講座室 TEL 03-3822-1111(代表)

まるで雪めがね！ 特徴的な目をもつ土偶 重文 土偶 宮城県出土

2006年2月26日(日)まで 本館1室 日本美術のあけぼの

縄文時代を代表する資料のひとつに土偶があります。教科書にも登場する「遮光器土偶」は著名であり、東北地方を中心に同様の造形のもものがいくつも出土しています。また、関東地方では「ハート形土偶」や、鳥の顔に似ていることから「ミミズク土偶」と呼ばれるものもあります。縄文時代を代

土する例も知られており、群馬県吾妻町郷原出土のハート形土偶は石囲いの中から出土しています。他の壊された土偶とは別の呪術的な用途があったのかもしれません。

り、腕や足などは丁寧に磨き上げられています。頭部と胴部および左足の先端が割れていたほかは

性であると考えられます。雪めがねのような独特な大きな目、全身にわたってほどこされた渦巻き文、部分的に残された赤色顔料をみると、土

偶が呪術的なものであることを実感させてくれます。縄文時代の人がほどこした入念な細工に目を凝らしてみてください。(目高 慎)

表するといっ
ても、実のところ土

偶はどのように使われたのか不明な部分が多いのも事実です。

ただし、土偶は完全な形で出土することは少なく、ひどく破損したものや故意に頭部や腕、足などを欠いている場合が多いようです。そこで、疾病などの身代わりにされたのではないかとという説も出されています。縄文時代後期や晩期で完全な形で出

今回紹介する宮

城県田尻町恵比須田

出土のものは遮光器土

偶と呼ばれるもので、

大きく広がった肩や腰、

手首・足首が著しく窄まる

形など極めて様式化しています。中空で薄く極めて軽量なつくりであ

す。頭部には王冠のような突起があり髪形あるいは髪飾りと思われ、乳房の表現があることから女



◎土偶
宮城県田尻町恵比須田出土
縄文時代・紀元前1000～紀元前400年頃
雪めがねのような大きな目と渦巻き文で埋め尽くされた身体が特徴的



右：◎ハート形土偶 個人蔵
群馬県吾妻町郷原出土
左：◎ミミズク土偶
埼玉県さいたま市岩槻区真福寺貝塚出土
平成館考古展示室にて展示しています

平成館企画展示室

東博の切手コレクション

特集陳列「万国郵便切手」

6月14日(火)～7月24日(日)

万国郵便連合(UPU)は加盟国の郵政に対して、各加盟国が発行した新切手を真偽の照会用にと送付しています。大正時代の切手趣味の雑誌によると、日本の郵政はこの新切手一種につき三枚送られてくる内の一枚を、当時の東京帝室博物館に寄贈



ドイツの普通切手
郵政から寄贈された切手はすべて東京帝室博物館の台紙に貼られている。左は3ペニヒ(原色は黄緑)、右は5ペニヒ(原色は紫)。いずれも1880年発行。右のように台紙に発行国名と料金が明記されているのは、実際に博物館で展示されたもので、光によって褪色している

(田辺龍太)

時代を物語るデザイン作品として、切手の展示を楽しんでいただければ幸いです。

像神や神話の登場人物、料金と模様、国土の風景や風習、動物や植物などが、小さな平面空間にデザインされているのです。切手は「グラフィックデザイン」の宝庫だといえるでしょう。イラストやデザインに興味を持つ若い人たちの間で、このような切手の特質に気が付いた人たちが、今切手に注目しつつあります。

していたそうです。このようなことで、東京国立博物館は明治時代中頃から大正時代に発行されていた世界の切手を所蔵しています。郵便切手という国家が発行した印刷物には、その時代の風潮や社会状況が視覚化されています。国王の肖像



本館特別1室

祈りと願いの結晶

特集陳列「写経」

6月14日(火)～7月24日(日)



◎法華経法師功德品第十九 平安時代・12世紀 紙の表裏に銀の切落がくまなく撒かれ、「荘厳」を実感できる

釈迦の教えは、写経という書き継ぐ行為の連続によって、現在に伝えられました。

た時代を築く人々が、一様に気持ちを凝らして向かった写経は、人々の祈りや願い、美意識などが筆を通して丁寧に織り込まれたものと見ることもできます。

謹厳な書風がみどころの長屋王願経や大ぶりの字で迫力のある大聖武、筆致に和様の優美さを極め料紙に美を尽くした唐紙法華文句断簡や法華経法師功德品など、写経行為は同じでも、その風情や佇まいは様々です。

はありません。ぜひ展示室に足をお運びいただき、書き写す行為に底流する信仰心が発露し、美意識とともに昇華した様子を、筆跡や奥書、料紙や装訂などとともに、ご覧いただければ幸いです。

(丸山猶計)

本館特別4室

マリア信仰のかたち

特集陳列

「キリシタン関係遺品」

―聖母像―

7月5日(火)～9月25日(日)

毎年恒例のキリシタン関係資料の特集です。今回は、聖母像をテーマとした展示を行います。聖母像は、絵画をはじめ、ロザリオ、銅牌、メダイ、十字架などにみえています。聖母に見立てて崇拝された白磁の観音像や、聖ドミニコがロザリオの秘儀を聖母から啓示されたという伝承を描いた「ロザリオの聖母」(板絵)などもごらんください。

なお、『親指のマリア』(重要文化財)などの作品は、2005年秋に開館する九州国立博物館(大宰府)に貸出中です。九博での展示もどうぞお楽しみに。

(高橋裕次)



◎マリア観音像
明～清時代・17世紀
白磁の観音像。中国南部で子育ての守り神として作られ、日本に輸出されたもの

収蔵品でたどる貨幣の歴史

特集陳列「日本のお金—富本銭から大判・小判まで—」

7月5日(火)～9月25日(日)

日本でいちばん古い貨幣といえ
ば、誰もが小学校の社会の授業でな
らった和同開珎を思い描くのではな
いでしょうか。しかし近年では「富
本」の二字が入る富本銭が、和同開
珎より古い貨幣として脚光を浴びて
います。富本銭は飛鳥時代の七世紀
後半につくられたと考えられていま
す。その後約二五〇年の間に十二種
類の銭貨(皇朝十二銭)が発行されま
したが、平安時代・十世紀末には皇
朝銭の鑄造は停止され、中国からの
輸入銭を用いるようになりました。
日本で再び貨幣がつくられるようにな
るのは、各地で金銀貨がつくられ
るようになる室町時代末になってか

らです。今回は富本銭から、安土桃
山・江戸時代の大判・小判まで、日
本の貨幣の歴史を当館収蔵品でたど
ってみたいと思います。(加島 勝)



天正長大判
安土桃山時代・
文禄4年頃～慶長5年頃
(1595頃～1600頃)
大川功氏寄贈



富本銭
飛鳥時代・7世紀

東洋館コレクションの中核

特集陳列「高島コレクション」

5月31日(火)～7月31日(日)

日本の製紙業界に大きく貢献した
高島菊次郎氏(1875～196
9)は、中国の文化に深い関心を示
し、とりわけ中国書画の収集に力を
注がれました。その収蔵品は、早く
から高島コレクションとして内外に
喧伝され、斯界に果たした功績は、
きわめて大きなものがあります。東
洋館の開館をひかえた昭和40年、卒
寿を迎えられた高島氏は、愛蔵の中

国書画278点を当館に寄贈されま
した。高島氏の没後、令夫人光子
氏、令息泰二氏による寄贈分とあわ
せて、高島氏のコレクションは、東
洋館の開館以来、中国書画の展示を
常に支えてきてくれました。このた
び、氏のご寄贈40周年を記念して、
高島コレクションを特集して陳列い
たします。
(富田 淳)



草書七言絶句軸
莫是龍筆 明時代・16世紀
明末清初には、長条幅に連綿草の作が流行する。
この作品はそのさきがけ

「日本の博物学」シリーズ

特集陳列「博物図譜—その系譜をたどる—」

6月21日(火)～7月31日(日)

東京国立博物館は、さ
まざまな動物・鳥・植物な
どの図譜を所蔵していま
す。図譜は、実際にもの
を前にして描いた写生図
と、他の図譜などを写し
た模写図があり、ほぼ同
じような図を見つけるこ
とが少なくありません。
たくさんの方の情報を収めた
図譜は、博物学者や大名
以下、多くの人々によつ
て作成されています。展
示では、図譜の変遷や、
その編纂過程を伝える資
料をご紹介します。
(高橋裕次)



博物館図譜 狼
明治時代・19世紀 青い目、真っ赤な舌が迫力を増す。うなり声まで聞こえそう

本館1室 仏教の興隆

技法と表現に注目

重文 釈迦如来坐像

7月18日(月)・初まで

平城宮の西に位置し、東の東大寺に対応するように建てられた西大寺に伝わった像で、塔の四面に安置された四仏(釈迦・阿弥陀・宝生・阿閼)のうちの一体です。像の大まかな形を木で彫り、漆と木の粉を混ぜた木屎漆という素材で仕上げられています。木心乾漆造りと呼ばれる技法で、八世紀後半から九世紀初め頃にみられます。この像は木彫でほぼ完成に近い形で造られていることから、その間でも後期のものと考えられます。肉体や衣文の表現に少し粘り気があるのは、この技法の特徴です。
(丸山士郎)



◎釈迦如来坐像
奈良時代・8世紀
奈良・西大寺蔵
切れ長の目が魅力

本館2室 国宝室

情趣あふれる和歌の理想郷

国宝 山水屏風



◎山水屏風
(部分)
鎌倉時代・13世紀
京都・神護寺蔵
滝の水音が響く
美しい秋の山あいを、鷹狩の一行が進む

6月7日(火)～7月3日(日)

山紫水明の土地に遊び、湧き出る詩情に想いをめぐらせるのは、心豊かなひとときといえるでしょう。平安朝の貴族たちも明媚な風景をこよなく愛し、邸内ではこれを描いた屏風を眺めて和歌を詠じました。その画面は、名所や季節感を連想させるモチーフ(歌枕)を散りばめた、いわば文学的な理想郷。この作品は、そうしたやまと絵屏風の伝統を今に伝える、もっとも古い作品です。清麗な画面を目で旅しつつ、平安朝の余光をご堪能ください。
(行徳真一郎)

本館2室 国宝室

絶妙な色遣いと精緻な技巧に注目

国宝 孔雀明王像

7月5日(火)～7月31日(日)

◎孔雀明王像
平安時代・12世紀
院政期貴族の優れた色彩
感覚をご堪能ください



優雅な姿ながら猛毒の蛇をも食べてしまう孔雀(くぐく)そこに一切の害毒を除く力を期待し、それを神格化したものが孔雀明王といわれます。通常、明王は怒りの姿をとりますが、孔雀明王は別名孔雀王母菩薩などともされるように柔和な姿に表されます。中でもこの画像は張りのある破綻のない形態

白を基調とした中間色による絶妙な彩色、羽毛の1本1本まで表す精緻な截金文様など、院政期の貴族の美意識が凝縮された孔雀明王画像の白眉といえる作品です。
(沖松健次郎)

本館7室 屏風と襖絵

富と福をもたらす異国の人々

重文 南蛮人渡来図屏風

6月21日(火)～7月31日(日)



◎南蛮人渡来図屏風(左隻部分) 筆者不詳 安土桃山時代・16世紀
個人蔵 貿易によって利益をもたらす、珍しいものと情報をもたらす宝船

十六世紀には、南からの異邦人として南蛮人と呼ばれた多くのポルトガル人やスペイン人が来日し、彼らの様子を描く屏風が数多く作られました。左に南蛮船とその荷揚げの様子、右にはイエズス会の教会(南蛮寺)と移動総督の一行が描かれています。南蛮人の長身で鼻の大きな人物表現には、当時の日本人の西欧理解が垣間見えます。
南蛮船は富を運ぶ宝船、南蛮人は異国の好ましい使者たちと見なされて、福をもたらすものと考えられていたようです。
(松嶋雅人)

本館10室 浮世絵と衣装

江戸時代のファッションって?

小袖 白綸子地叉手網模様

4月26日(火)～7月3日(日)



小袖 白綸子地叉手網模様
江戸時代・17世紀
網模様?それとも扇模様?
江戸の遊び心が小袖模様

流行を追いかけることは、女性たちのもつとも大きな関心事です。江戸時代、女性の流行はどのようなものでしょうか? 例えばこの小袖、叉手網を大きくリズムカルに左袖から右裾にかけてデザインし、まるで扇が舞い散るようなお洒落な模様に惹かれます。現代のきものにはみられない大胆な模様が、寛文期(二六六～一六七三)には大流行しました。このような江戸時代の女性の流行は、浮世絵などに描かれる女性を通してみることができ

ます。
(小山弓弥葉)



○品川座敷遊興の図(部分) 歌川豊国筆
江戸時代・18世紀 江戸の世も、やっぱり地球は丸かった

品川座敷遊興の図

歌川豊国筆

6月14日(火)～7月10日(日)

本館10室 浮世絵と衣装
まあるい地球の水平線は？

品川は広々とした海に面し、夏には格好の遊び場でした。特に夜は二階座敷で涼やかな風を受けての宴会が楽しめるのですから大変な人気です。本図は、海を望む二階で芸者をあけての大宴会。男は若者が一人だけです。でも、注目していただきたいのは、三枚続きのワイド画面から望む品川の海が球形に描かれていること。この図が描かれたのは、西洋の科学知識がもてはやされた時代でした。地球が球であるという科学知識がこのような表現を生んだのです。

(田沢裕貴)



樹下人物螺鈿沈金食籠
第二尚氏時代・18世紀
中国文人の理想とされた林泉に遊ぶ人物や龍の図像に、中国からの強い影響がみられる
※展示は7月20日から

中国との交易が生んだ工芸品 特集陳列「琉球の工芸」

本館15室 民族資料

5月31日(火)～9月11日(日)

琉球は中国大陸に近く、優れた工芸品が輸入されるとともに、対中国交易品として作られた大量の漆工芸品がみられます。線彫内に金箔を摺り込んだ沈金、夜光貝やアワビ貝などを用いて装飾する螺鈿、顔料と漆を混ぜて文様にして漆面に貼り付ける堆錦などです。陶器は十六～十七世紀に壺屋焼がひらかれて広く生産され、多くの優品がつくられました。染織、装身具、やきもの、漆工、金工など琉球の工芸品をぜひご覧ください。

(日高 慎)

重文 金銅板両界曼荼羅

本館12室 金工
修理後の初お披露目

5月31日(火)～9月4日(日)

○金銅板両界曼荼羅
胎藏界曼荼羅
建久5年(1194) 銘
茨城・徳満寺蔵
金属で表された曼荼羅は他に例がない



曼荼羅は一般に紙や絹布に描かれることが多いのですが、これは金属で表されたもので、他に類例がありません。金剛界、胎藏界とも銅板に諸尊を裏から鋳で打ち出し、線刻を加えています。もともとは柳川市の近くの清楽寺にあったもので、建久5年、藤原延次が制作したことが、記されています。9枚の各会を蝶番あるいは銅線をつないでいたため、その接続面に亀裂が生じたり、蝶板が取れていた部分がありました。そのためここしばらくは展示をする機会が少なかったのですが、修理とクリーニングが完了し、再び見ていただくことができますようにしました。(原田一敏)

白磁蝶耳瓶

本館19室 近代工芸
二匹の蝶が舞い降りた瞬間

6月14日(火)～9月19日(月・祝)



白磁蝶耳瓶
初代宮永東山(1868～1941)
大正時代・20世紀
横河下枝氏寄贈
伝統の技と新しい時代の感性の融合から生まれた傑作

宮永東山は一九〇〇年パリ万博の際にパリで京焼粟田の名工・七代錦光山宗兵衛と出会いました。これを契機として陶磁の道に入り、浅井忠らとともに遊陶園を結成するなど、京焼の改革を担う一人として活躍しました。
双耳花入という中国の青磁鳳凰耳花入が思い出されます。東山はそれを白磁で作りました。耳は鳳凰や龍ではなく、二匹の蝶。その蝶の繊細な表現が白磁の質感と見事に調和しており、伝統の世界と二十世紀の新しい芸術とを結ぶ東山の代表作といえます。

(伊藤嘉章)

どうはく花だより

東博のシンボルツリー ユリノキ

東京国立博物館には開館当時、自然科学分野を扱う天産部がありました。そんな経緯も手伝って、東博の構内では多くの種類の植物を見ることができ、このコーナーでは、季節ごとに私たちの目を楽しませてくれる植物をご紹介します。

なにもともあれ、博物館の正面にそびえるユリノキからスタートさせることにしましょう。アメリカ原産、モクレン科の落葉高木で、明治八～九年に日本に渡り、東博のユリノキだといわれています。現在は各地の街路樹などでお馴染みの木になりました。葉のかたちが半纏に似る



ことからハンテンボク、その花のかたちからチヨリツブツリとも呼ばれます。五月から六月にかけて、透明感のある黄色い花が高い枝にたくさん咲きます。東博のユリノキは高さ三〇メートル超、幹の太さは約五メートル。上野観光連盟の作成した上野公園樹木マップによれば、日本一太いユリノキだとか。
春の芽吹き、初夏の花、秋の黄葉、枝振りの美しさに見惚れる冬枯れの季節と、それぞれに美しい、まさに東博のシンボルです。

ところでユリノキのある本館前庭の芝生では可憐な野の花を見つけることができます。春の訪れを告げる関東タンポポ、ピンクのネジバナなど、巨木の足元にもぜひ注目。(小林 牧)



④ 2005年度のボランティア研修。博物館の概要や、仕事の内容、収蔵品についての講義をうけた

東博ボランティアの核 生涯学習ボランティア

東博がボランティア事業を本格的にはじめてから今年で六年目になります。以前は、インフォメーションで案内を担当する人と、教育普及事業の補助などをする人の大きく二つに分かれていましたが、昨年から「生涯学習ボランティア」(以下、ボランティア)としてこれらを一本化しました。毎年一月に五〇人ずつ募集し、三年の任期で活動しています。「生涯学習」というと、何か新しい事をしに来るようですが、そうではなく、来館者の生涯学習をサポートするために、当館のさまざまな仕事に参加しています。活動自体が社会貢献となり、また、自身の学びの場となればと考えています。

四日間の研修を終えた各ボランティアは月に最低二日の活動が義務づけられています。毎月二〇日までに次の月に活動できる日にちを連絡して予定を入れます。お勤めのある人は月に二日でも大変でしょう。



④ 朝のミーティング風景。この日初めてのボランティアさんも

**ミーティングではじまり
ミーティングで終わる活動日**

毎朝一〇時から朝礼、その日のシフトを決めます。一〇時三〇分～一六時三〇分の活動時間を一時間ごとに区切り、各ポジションへの割り当てを希望で決めます。予定していても仕事や家庭の事情などで急に来られなくなることもあるため、事前にだいたいの人数は確保するようにしているものの、実際どんな仕事をやるかは当日来た人の中で自主的に決めてもらっています。ミーティングでは、ボランティア室の職員がその日の催しや展覧会の混雑状況など連



第5回

「ボランティアという仕事」

現在東博では約一五〇名の皆さんが、生涯学習ボランティアとして展示や敷地内のガイドツアー、講演会など教育普及事業の補助、展示解説パンフレットの製作などさまざまなお仕事で活躍しています。今回は、東博 生涯学習ボランティアの活動について紹介します。

絡事項を伝え、活動にあたっての注意事項を確認します。活動が終わったら、日誌にその日の活動内容を記録します。帰る前にもミーティングをして活動内容を口頭で報告します。配布物の欠品についての報告や来館者からの意見・クレーム、またその日の出来事について話します。

目立たないけれど重要な「ルーティン」

活動内容は日によっても違いますが、「ルーティン」と呼ばれるものには次のようなことがあります。

● 本館17室・正門のご案内

東博は広いので、地図を見ただけでは目指すところへたどり着けない方もいらっしゃるでしょう。そこで、本館17室と正門まわりにボランティアさんが待機してご案内をすることになっています。インフォメーションカウンターという固定した場所でのご案内ではなく、いろんなところでホテルのコンシェルジュのように機能できたらと願っていることです。本館17室は本館と平成館をつなぐ連絡通路へ出るところで、本館の正面から入った人と、平成館の特別展を見て本館へ来た人と両方の動線が交錯す



④ 本館17室でのご案内。「出口とトイレの場所をよく聞かれます」

場所です。そこで、ボランティアに交替で立つてもらい、案内をしています。

正門付近で案内に立つ人もいます。以前は新札が使えない券売機があり、切符を買うお手伝いをしたこともありましたが、これは銀行のATMで行員の方が使い方の案内をしていることからヒントを得て始めました。来館者が門を入って迷わず目的地に行けるようご案内します。また、車いすで来館された方にはバリアフリーで行ける道をお知らせします。

● データ入力

絵画・書跡作品の釈文や読み下し、あるいは題箋作品ラベルのデータを入力する作



④ 作品データ入力作業。外字も多いので大変

● 館内のボランティアガイドツアー表示サインの貼り替え

ボランティアが行うガイドツアーは日によって種類や開始時間が変わります。このスケジュールは館内の案内板でお知らせしますが、毎日変わるため表示シールの貼り替え作業が必要です。「シール貼り替え隊」と呼んでいるこの作業は、その日のシールを剥がす人、翌日



④ 「日本美術の流れ」パンフレットの印刷作業。簡易印刷機でこの日は500部印刷

業です。ここで作ったデータを元に作品解説の小さなラベルが作られることもあります。

● 「日本美術の流れ」パンフの印刷

本館二階で配布する「日本美術の流れ」パンフレットを実際に印刷するのはボランティアにお願いしています。毎日多くの部数が出るため、地味ですが欠かせない業務となっています。



「案内」
教育普及室長・
ボランティア室長
加島 勝

分のシールを貼る人の二人一組で、
 夕方館内の四力所を回ります。



④「シール貼り替え隊」出動。この日が活動初日という清水さんにつづを伝授する丸山さん

●教育普及プログラムの補助

東博で行う講演会や列品解説、また展示室で行うワークショップなど教育普及プログラムのサポートに活躍しています。開催時の補助だけでなく、講演会の後のテープおこしをする場合もあり、館の記録として役立っています。

●法隆寺宝物館での閲覧補助

法隆寺宝物館の中二階にある資料室で、ご家族で楽しめるワークショップのコーナーを運営してい



④ 展示リストの差し替え。展示替えの多い本館は要チェック

ます。また、デジタルアーカイブの取り扱いもご案内しています。
 以上が主なものですが、このほかガイドツアーの資料用に記事を切り抜いてファイルしたり、展示リストの表をファイルしたりなど来館者案内のための資料を整える仕事もいろいろあります。

●ガイドツアー

みなさんが一番多く目にするのは、展示や敷地内をご案内するガイドツアーのボランティアではないでしょうか。ボランティアの自主企画として、昨年始めましたがだんだん増えて、現在定期的に行うガイドツアーは七種類。このほか、庭の案内も含めた応挙館でのお茶会や外国人向けのツアーなどを不定期で開催しています。ガイドを行うボランティアは一五〇名のうち五〇名程度。この方々はガイドだけでなく空いた時間にルーティンの仕事もしています。ツアーはだいたい二人一組で、不測の事態や、足の不自由な方が参加される場合にも対応できます。最近



④ ボランティアによる外国語ツアー（英語）

はツアーに参加する人も増え、多い時は四〇名を数えることもあります。あまり大きなグループで展示室を巡ることは難しいので、人数によっては二グループに分かれて時間差で出発することもあります。展示ガイドは作品やその背景について調べるのになり準備が大変とのこと。また、庭園茶室ツアーの前には、掃除をしてツアーをするエリアを整えます。最近ではガラスが多く、彼らの「落としもの」の始末も大変だとか。

ここで紹介した以外にもボランティアの活躍はまだまだあり、全部紹介できないのが残念です。今やボランティアの存在なしには博物館のサービス充実が望めません。これから「人にやさしい博物館」をテーマに、障害者、外国人、子どもから高齢者まであらゆる人にとって来館体験が快適なものとなるお手伝いに積極的に取り組んでいただけることを願っています。

（構成 鬼頭智美）



④ ガイドボランティア用の掲示板。ガイドツアーのグループごとに予定表や連絡事項を掲示

④ ボランティアの登録証。昨年から任期3年と決められた

ボランティア渡辺春美さんへ聞く 本館ガイドツアーへの道

本館ハイライトツアーをするグループは約二〇名ですが、大体月に一回集まり、土曜日丸一日にかけて勉強会をします。この勉強会の前に、展示替えごとに展示予定リストをみて次はどんな作品が出るか確認し、ツアーで説明する作品を五、六点選びます。選んだ各作品について担当を決め、資料館や近所の図書館を利用して各自調べます。

勉強会では、それぞれが担当した作品について発表、情報を共有します。同時に、ガイド用の原稿（A4一枚程度）を提出し、研究員のチェックを受けます。

研究員の確認が終わったら、その原稿を元に、自分が話す原稿を作ります。これが一番大変で、一日パソコンに向かってあれこれ推敲を重ねます。原稿ができたら、実際に読んでテープにとって時間を計り、家族を練習台にしてリハール。だいたい主人がその犠牲です（笑）。

新しいツアーを行う二日前にはグループで集まり、ガイドコースを話しながらかみ下見します。実際に展示を見て内容を修正することもあります。以前、男衾三郎絵巻をガイドする時、調べている時点で本の図版でしかみておらず、「とても鮮やかな色できれい」と説明しようと思ってい

たら、実物は意外に褪色していたので原稿を変えました。またガイドする予定にしていた作品の隣にある作品の方が面白そう

で急ぎよ加えたこともあります。本番のガイドツアーでは、展示室が暗いところも多く原稿を読めないで内容は暗記するようがんばりますが、毎回完璧にはいきませんが、ツアーの内容は毎回だいたい同じですが、よりわかりやすくするため、パネルなどの道具で工夫することもあります。

ガイドツアーの準備は大変ですが、その過程で担当した作品がだんだん身近になってくる実感がボランティアをする一番の喜びです。



本館ハイライトツアー

渡辺春美さん（左端）



◆コンサートのお知らせ

元バイエルン国立歌劇場専属歌手

「亀川敬子ソプラノリサイタル」

～ナポリの香りをのせて～

日 時 6月25日(土) 18時30分開演
会 場 東京国立博物館 本館特別5室
出 演 亀川敬子(ソプラノ)
主 催 東京国立博物館
曲 目 Il bacio 口づけ、津軽のふるさと、
Un bel di vedremo ある晴れた日に ほか
料 金 4000円(平常展観覧券付) 200席
全席自由

サマーイン クラリネットコンサート

日 時 6月13日(月) 19時開演 ※18時15分正門開門
場 所 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出 演 デービッド・S・グレスハム(クラリネット)
桃子グレスハム(ピアノ)
主 催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット
曲 目 スカルラッティ：ソナタK.144 カンタービレ
ジョージ・ガーシュイン：プレリュード
レナード・バーンスタイン：ソナタ ほか
料 金 5000円(平常展観覧券付) 300席 全席自由

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売り場でチケット販売

受 付 開館日の9時30分～閉館30分前(月曜休館)

※各イベントの詳細は、東京国立博物館イベント担当(TEL 03-3821-9270)

または、当館ホームページでご確認ください

※お車でのご来館はご遠慮ください

●電話予約販売

申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL 03-3821-9270

受 付 月曜日～金曜日の9時30分～17時(祝日は除く)

※チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えでお渡しします

引換時間 開館日の9時30分～閉館30分前(月曜休館)

◆資料館一時閉館のお知らせ

資料館は設備移転および閲覧室の改修作業のため、2005年6月4日(土)から7月3日(日)までの間、閉館し、図書および写真資料の閲覧ならびに特別観覧(写真原板使用)業務を休止します。写真原板使用の受け付けは5月25日(水)までとなります。ご迷惑をおかけいたしますが、あしからずご了承ください。

なお、写真のご利用については制度の改正を予定しており、受け付けの再開は7月4日(月)となります。詳細は当館ウェブサイト等でお知らせいたします。お問い合わせは当館情報課情報管理室(TEL03-3822-1111代表)まで。

◆2005年6月28日(火)臨時休館のお知らせ

電気設備保守点検のため、全館臨時休館させていただきます。

◆招待券プレゼント

特別展「遣唐使と唐の美術」の招待券をペアで10名の方に抽選でプレゼントします。ご希望の方は、はがきに、住所・氏名(ふりがな)・男女・年齢・職業ならびに、この号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。締め切りは6月30日(木)。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館 広報室 遣唐使展招待券係宛

◆お詫びと訂正

本誌670号(4・5月号)2ページ、平成17年度特別展の予定のうち、特別公開「国宝・天寿国編帳と聖徳太子像」の会期を2006年2月21日(火)～4月16日(日)と掲載しましたが、都合により2006年3月14日(火)～4月9日(日)に変更いたしました。お詫びして訂正いたします。

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効

賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

特 典

- 特別展の特別内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
*ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(TNM Members)入会申込書をお送りします。
*お問い合わせは
東京国立博物館営業開発部
賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2005年4月21日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社
ホテルオークラエンタープライズ様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
NHK 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
クラブツーリズム株式会社 様

維持会員

三菱電機
ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様

財団法人ソニー教育財団 様
株式会社 NTTドコモ 様
斎藤 京子 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
京葉匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 初次郎 様
篠内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
株式会社 光彩工藝 様
上久保 のり子 様
寺本 明男 様

柳田 良豊 様
株式会社
スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨ株式会社 様
星埜 由尚 様
関口 大志 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術藪本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
大嶋 道子 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様

(ほか12名3社、順不同)

◆ロサンゼルスで「19世紀万国博覧会における日本の美術」展開催

時には巨大、時には極めて精緻、そして常に見る人に驚きを与える日本の近代工芸。昨年当館で開催した「世紀の祭典 万国博覧会の美術」展で、その魅力をご覧いただけたことと思います。この驚きに満ちた日本の近代工芸をアメリカで紹介しようという展覧会が、今年の5月26日から10月10日にかけてロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムで開催されます。

一八七三年ウィーン、一八七



宝相華文花瓶 関沢卯一 作 明治26年(1893)
1893年シカゴ・コロムビア世界博覧会出品

JAPAN Goes to the World's Fairs: Japanese Art at the Great Expositions in Europe and the United States, 1867-1904"

アメリカ ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム(LACMA)
5月26日(木)~10月10日(月)

主催: LACMA 東京国立博物館 財団法人2005年日本国際博覧会協会
NHK NHK プロモーション
後援: 在ロサンゼルス日本国総領事館 国際交流基金
観覧料: 一般 9ドル、62歳以上&18歳以上の学生 5ドル、17歳以下は無料。
17時以降と第2火曜日は無料

◆MUSEUM 595号
(平成17年4月15日発行)の掲載論文

① 雲巖寺の頂相彫刻

浅見龍介 当館出版企画室長

② 《資料紹介》仏性寺二十日仏像

田中義恭

③ 博物館草創期の高橋由一 浅草文庫

伝来品とウィーン万国博覧会関連品

土屋裕子 当館保存修復室研究員

④ 博物館としてのブランドについて

鬼頭智美 当館国際交流室長

＊購読のお問い合わせは

当館ミュージアムショップ

TEL 03-3822-0088 まで



◆当館所蔵の国宝・重要文化財
平成17年の新指定で、当館所蔵の長谷川信春(等) 筆「牧馬図屏風」(室町・安土桃山時代、銅人形(江戸時代)、壬申検査関係資料(明治時代)が、この6月に新たに重要文化財に指定されます。これらの作品は、4月26日~5月8日に開催された「平成17年新指定国宝・重要文化財」展にて紹介されました。

また、この秋の九州国立博物館開館を前に、当館所蔵作品のうち狩野正信筆「周茂叔愛蓮圖」(室町時代、染花物語 鎌倉時代、太刀銘来国光(鎌倉時代)の国宝三件、重要文化財十八件を含む五十九件が、4月1日付で九州国立博物館に無期管理換えされました。国立博物館所蔵の文化財をより広く、より有効に活用するため、九州国立博物館ではこのほかにも当館の所蔵作品が展示されることになっています。

このほか、寄贈や購入によって新たに収蔵された作品を加え、当館所蔵の国宝の件数は八十七件、重要文化財は六一〇件となりました。

(2005年6月1日現在)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベントなどさまざまな特典があります

パスポート 一般 3000円 学生 2000円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会

口座番号 00160-6-406616

金額 1万円

*振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号(パンフレット、ウェブサイト参照)を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート

口座番号 00120-3-665737

金額 一般3000円、学生2000円

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申込には2週間かかります

*九州国立博物館は平成17年10月16日開館予定

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース

口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料は申込者のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締め切りは7月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間: 9時30分~17時、4月~12月の特別展
開催期間中の金曜日は20時まで、4月~9月の土・日・祝・休日は18時まで
(入館は閉館の30分前まで)

休館日: 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、
年末年始(12月28日~1月1日)、ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日~8月15日)は原則として無休

2005年6月28日(火) 臨時休館

平常展観覧料金

一般420(210)円、大学生130(70)円

*()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*敬老の日(2005年9月19日)は平常展のみ無料

2005年6月

東京国立博物館 6月・7月の展示・催し物

2005年7月

1 WED	14:00 14:30 15:00
2 THU	14:00 14:30
3 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
4 SAT	テーマ別講演会"東国の彫刻史"①「古代東国の造像」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
5 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
6 MON	休館日
7 TUE	列品解説「兜のながれ」 14:00 本館14室
8 WED	14:00 14:30 15:00
9 THU	14:00 14:30
10 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
11 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
12 SUN	時間延長(18:00まで) 「ベルリンの空宝展」最終日 14:00 14:30
13 MON	休館日 サマーインクラリネットコンサート 19:00 平成館ラウンジ ※1
14 TUE	列品解説「能「杜若」に見る装束とその着付表現」 14:00 本館9室
15 WED	14:30 15:00
16 THU	14:00 14:30
17 FRI	14:30
18 SAT	テーマ別講演会"東国の彫刻史"②「鎌倉幕府御家人の造像」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
19 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00, 13:00, 14:00 14:30
20 MON	休館日
21 TUE	列品解説「カシュミールの仏像」 14:00 東洋館第1室
22 WED	法隆寺宝物館イブニングギャラリー第1回 14:00 14:30 15:00 「1300年も受け継がれている染織技法」19:00 法隆寺宝物館※2
23 THU	14:00 14:30
24 FRI	14:30
25 SAT	月例講演会「写経料紙の荘厳について」 13:30 平成館大講堂 亀川敬子ソプラノリサイタル 18:00 本館特別5室※3 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
26 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
27 MON	休館日
28 TUE	休館日
29 WED	14:00 14:30 15:00
30 THU	14:00 14:30

- =ボランティアによる本館ハイライトツアー ……集合場所：本館1階エントランス
- =ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド ……集合場所：本館1階エントランス
- =ボランティアによる陶磁エリアガイド ……集合場所：本館1階エントランス
- =ボランティアによる彫刻ガイド ……集合場所：本館1階エントランス
- =ボランティアによる樹木ツアー ……集合場所：本館1階エントランス
- =ボランティアによる考古展示室ガイド ……集合場所：平成館考古展示室入口
- =ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド ……集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
- =ボランティアによる応挙館茶会 ……集合場所：本館1階エントランス
(参加費500円、開始1時間前に本館1階で整理券配布)

1 FRI	14:30
2 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
3 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
4 MON	休館日
5 TUE	列品解説「名物裂一錦を中心に」 14:00 東洋館第5室
6 WED	法隆寺宝物館イブニングギャラリー第2回 14:00 14:30 15:00 「小金銅仏の魅力」 19:00 法隆寺宝物館※4
7 THU	14:00 14:30
8 FRI	14:30
9 SAT	テーマ別講演会"東国の彫刻史"③「鎌倉新仏教の諸宗派」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
10 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
11 MON	休館日
12 TUE	列品解説「明の五彩」 14:00 東洋館第5室
13 WED	14:30 15:00
14 THU	14:00 14:30
15 FRI	14:30
16 SAT	月例講演会「デザインから見る切手の世界」 13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
17 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00, 13:00, 14:00 14:30
18 MON	時間延長(18:00まで)
19 TUE	休館日
20 WED	法隆寺宝物館イブニングギャラリー第3回「法隆寺宝物金工品にみる国際性」19:00 「遣唐使と唐の美術」 14:00 14:30 15:00 法隆寺宝物館※5 「模写・模造と日本美術—うつす・まなぶ・つたえる—」
21 THU	14:00 14:30
22 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
23 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
24 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
25 MON	休館日
26 TUE	列品解説「近代の絵画を中心に」 14:00 本館18室
27 WED	14:00 14:30 15:00
28 THU	14:00 14:30
29 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
30 SAT	テーマ別講演会"東国の彫刻史"④「鎌倉大仏と宋風の仏像」13:30 平成館大講堂 描いてみよう! 日本の美術 16:30※6 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
31 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30

9/11まで
 ※1～5は有料イベントです。詳しくは本誌6ページ、または14ページをご覧ください
 ※6は事前申込制です
 *上記の予定は予告なく変更になることがあります
 当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください